

11日 水曜

ネヘミヤ

6:15 こうして、城壁は五十二日かかって、エルルの月の二十五日に完成した。

6:16 私たちの敵がみなこれを聞いたとき、周囲の国々の民はみな恐れ、大いに面目を失った。この工事が私たちの神によってなされたことを知ったからである。

6:17 またそのころ、ユダの有力者たちはトビヤのところにひんぱんに手紙を送っていて、トビヤも彼らに返事をしていた。

6:18 それは、トビヤがアラフの子シェカンヤの婿であり、また、トビヤの子ヨハナンもベレクヤの子メシュラムの娘を妻に迎えていたので、彼に誓いを立てていた者がユダの中に大勢いたからである。

6:19 さらに、彼らは私の前でトビヤの善行を語り、彼に私の言うことを筒抜けにしていた。トビヤは私を脅すために、たびたび手紙を送って来た。

7:1 城壁が築き直され、私が扉を取り付けたとき、門衛、歌い手、レビ人が任命された。

7:2 私は兄弟ハナニとこの城の長ハナンヤに、エルサレムを治めるように命じた。これは、ハナンヤが誠実な人であり、多くの人にまさって神を恐れていたからであった。

7:3 私は彼らに言った。「太陽が高く昇って暑くなるまでは、エルサレムの門を開けてはならない。そして彼らが警備に立っている間に、門をしっかりと閉じておきなさい。エルサレムの住民を、それぞれ物見のやぐらか自分の家の前に、見張りとして立てなさい。」

7:4 この町は広々としていて大きかったが、その中の住民は少なく、家もまだ十分に建て



られていなかった。

神様の栄光のために大いなる計画が進んでいる間も、敵と内通する者がありました。主の力を信じきれないで、主以外の人間的なものを頼みとしたのでしょうか。城壁再建が失敗したら、敵の側につくつもりだったのでしょうか。クリスチャンでも神以外のものを頼りとしつつ、両者を量りにかけるような生き方が散見されます。卑怯な生き方をするクリスチャンにはなりたくないものです。

またその原因は結婚にありました。結婚は何でもめでたいと言われるようですが、主の祝福があつてこそです。神と偶像に二股かけるようなことは、クリスチャンは誰もしたくないのですが、結婚は男女が一体となることですから、神を認めない人との結婚は、信仰と不信仰に二股かけるようなライフスタイルになってしまいがちです。相当な覚悟と、また周囲の理解や助けが必要になります。

城壁が再建されたときに、歌うたいとレビ人が任命されました。これは神様の働きであり、信仰の働きであったからです。教会でもすべての働きに関して、信仰を表しましょう。みことばと祈りで始め、主に導かれ、主に栄光をお返ししましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

